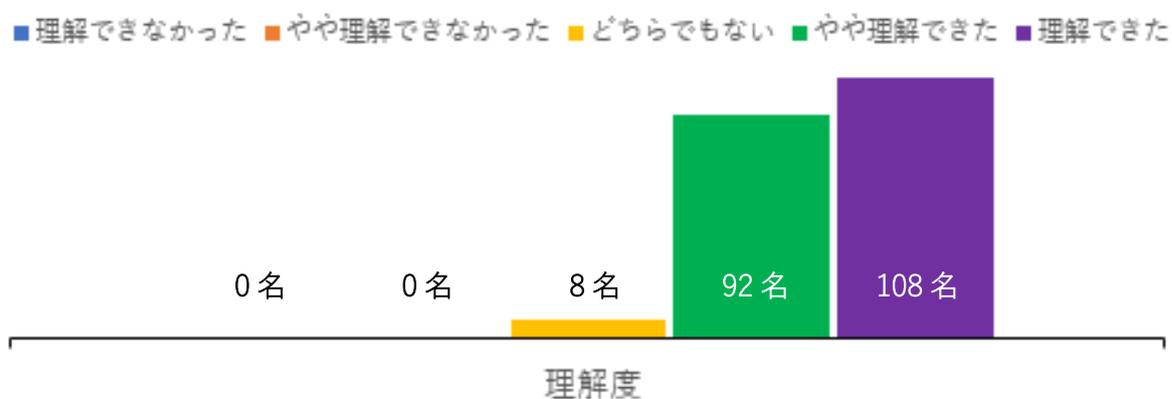


アンケート集計結果

作成日：2022 年 8 月 25 日

アンケート 1 「生体内微量元素」の講義に対する理解度



レポート提出 208 名中、多くの方々が理解できたとご回答いただきました。

アンケート 2 本研究会のどのような点が特に役に立ちましたか？（一例）

・生体内の微量元素は、外注測定のため、検査は知っていても詳しくは、わかっていないまま検体を提出していたように思います。数回聞きましたが、なかなかちゃんと覚えるには至っておらず、さらに復習しなくてはと思っています。Zn は特にいろいろな疾患に絡んでおり、とても興味深かったです。院内で測定できないかと言う話も出ていたりしますので、なおさらでした。

・微量元素に関して項目や数値として毎日見ているものではあるが、変動の要因までしっかり考える時間は無いので、今回参加できて良かったと思う。また、あまり触れる事のない微量元素を知る機会にもなったので良かったと思う。

・生体内微量元素について復習することができた。鉄欠乏性貧血や消化器内科の患者さんに血清鉄がよく依頼されている理由を整理することができた。また、亜鉛の有用性を学ぶことができた。

アンケート 3 ご意見・ご感想など（一例）

たくさんのご貴重なご意見ありがとうございました。

ご意見①：これからも定期的に基礎的な内容を解説して頂けるとありがたいです。

ご回答①：ご意見ありがとうございます。今年度は4月に『糖尿病』について開催させていただきました。この先、11月に日臨技中部圏支部研修会『テーマ：救急医療と検査データ』、12月に講演会『テーマ：検査室の自動化』を開催予定です。職場の同僚の方などとお誘いあわせのうえ受講していただきますようお願いいたします。

ご意見②：オンデマンドでとても助かります。聞き逃したところを何度も戻って聞くことができ、またレポートがあるので心もちも若干異なりいつも以上に聞こうという思いがあって私にはよかったです。

ご回答②：ご好評いただきありがとうございます。配信期間内は何度でも視聴可能ですので、ぜひご活用ください。またレポートの提出により生涯教育点数付与もいたしております。振り返りも兼ねてご利用ください。

設問 1～4 と正解

設問 1) 正しいものを選んでください

- ① 必須微量元素は 20 元素ある (×)
- ② ウィルソン病は銅の遺伝性欠乏疾患である (×)
- ③ マンガンは成人の体内に 100mg 含まれている (×)
- ④ セレンの消化管からの吸収率は低い (×)
- ⑤ モリブデンは銅と拮抗作用がある (○)：正解

設問 2) 正しいものを選んでください

- ① 人体の元素で最も多いのは C：炭素である (×)
- ② 鉄は必須常量元素である (×)
- ③ コバルトはビタミン B6 を構成する成分である (×)
- ④ ヨウ素は甲状腺ホルモンの原料である (○)：正解
- ⑤ 3 価のクロムには発がん性がある (×)

設問 3) 正しいものを選んでください

- ① 生体内に存在する鉄として最も多く存在するのは貯蔵鉄である (×)
- ② 貯蔵鉄とはミオグロビン鉄や含鉄酵素として分布している (×)
- ③ 鉄の吸収を主に行う臓器は胃である (×)
- ④ 鉄は毎日約 20mg が吸収され、ヘモグロビン合成に毎日 1mg が使用される (×)
- ⑤ UIBC には日内変動があり、夜間睡眠中に高く早朝に低い (○)：正解

設問4) 間違っているものを選択してください

- ①鉄欠乏性貧血の原因において最も多いのは慢性の出血である (○)
- ②鉄欠乏性貧血では貯蔵鉄が減少しただけでは貧血とはならない (○)
- ③慢性炎症性疾患では炎症性タンパクの産生が優先されるため、TIBC が低下する (○)
- ④鉄欠乏性貧血は血清鉄↓、TIBC↑、UIBC↑となり、慢性炎症性疾患では血清鉄↓、TIBC↓、UIBC↓となるため、鑑別が可能である (○)
- ⑤急性肝炎では肝機能低下により蛋白合成能が低下するため、トランスフェリン産生低下により TIBC↓となる (×) : **正解**

<まとめ>

2022 年度 7 月研究会も Web 配信にて、県外会員様も生涯教育付与対象とし実施させていただきました。事前申込 330 名に対して 208 名の方がレポート提出してくださいました。多くの方々にご視聴いただきありがとうございました。

今回は『生体内微量元素』をテーマに掲げ、微量元素のまとめ、さらに鉄と亜鉛に焦点を当て基礎から応用まで解り易く解説させていただきました。

微量元素の測定を外注検査で実施されているご施設が多いのではないのでしょうか。普段目にする頻度が少ない項目ですが、生体内で重要な働きをしていることを改めて確認することができました。亜鉛の導入を検討しているご施設もあるかと存じます。今回の研究会が皆様のご施設の精度維持・向上の一助となれば幸いです。

今後も皆様により良い情報提供ができるように班員一同、精進してまいります。

以上

作成・回答編集・問い合わせ先：生物化学分析検査研究班

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 中央検査科
伊藤 綾香

TEL : 052-721-7171

E-MAIL : emc2206@nagoya-cu.ac.jp